

3 洪水対策

-
- (1) 「足立区洪水ハザードマップ」の認知
 - (2) 河川はん濫による浸水被害の際の対処
 - (3) 荒川がはん濫した際の最初の避難先
-

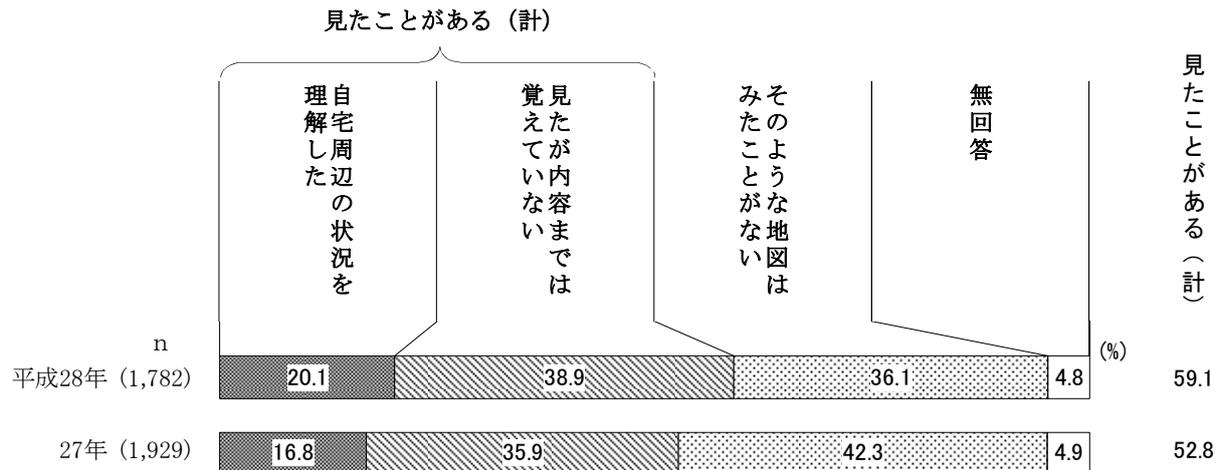
3. 洪水対策

(1) 「足立区洪水ハザードマップ」の認知

■ 【見たことがある】は6割弱

問9 あなたは、足立区が発行（区のホームページにも掲載）している「足立区洪水ハザードマップ」をご覧になったことがありますか（○は1つだけ）。

図3-1-1 前回調査比較／「足立区洪水ハザードマップ」の認知



※ 「自宅周辺の状況を理解した」は、27年度「見たことがあって、自宅周辺の状況を理解した」。

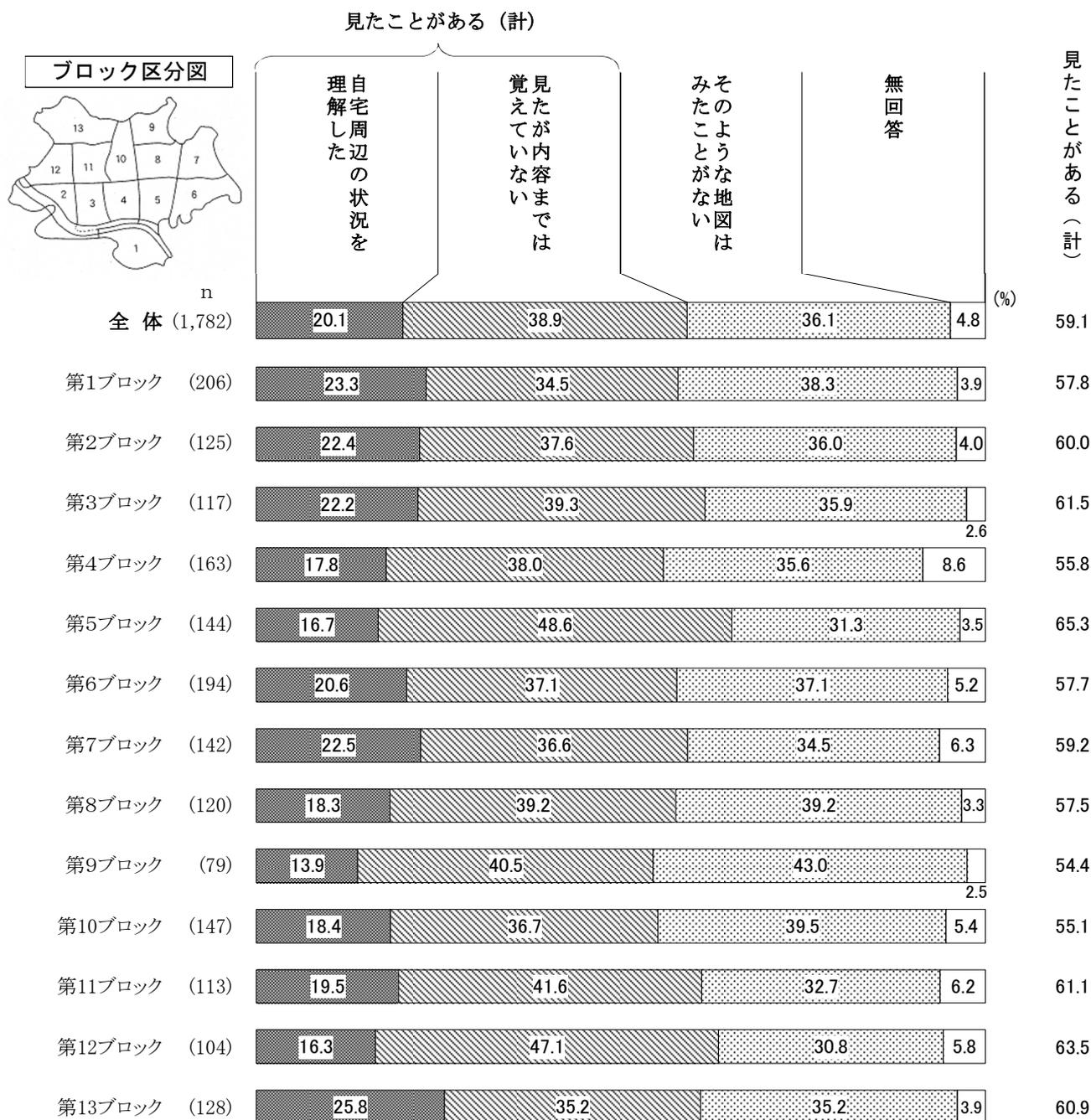
『足立区洪水ハザードマップ』で「自宅周辺の状況を理解した」が20.1%であり、これに「見たが内容までは覚えていない」(38.9%)を合わせた【見たことがある】は59.1%を占めている。一方、「そのような地図は見たことがない」は36.1%となっている。

経年でみると、【見たことがある】は、平成27年の52.8%から、今回59.1%へと増加している。

第3章 調査結果の分析 〈洪水対策〉

ブロック別で見ると、第5ブロックで【見たことがある】が65.3%と最も高く、これに第12ブロックが63.5%で次いでいる。

図3-1-2 地域ブロック別／「足立区洪水ハザードマップ」の認知

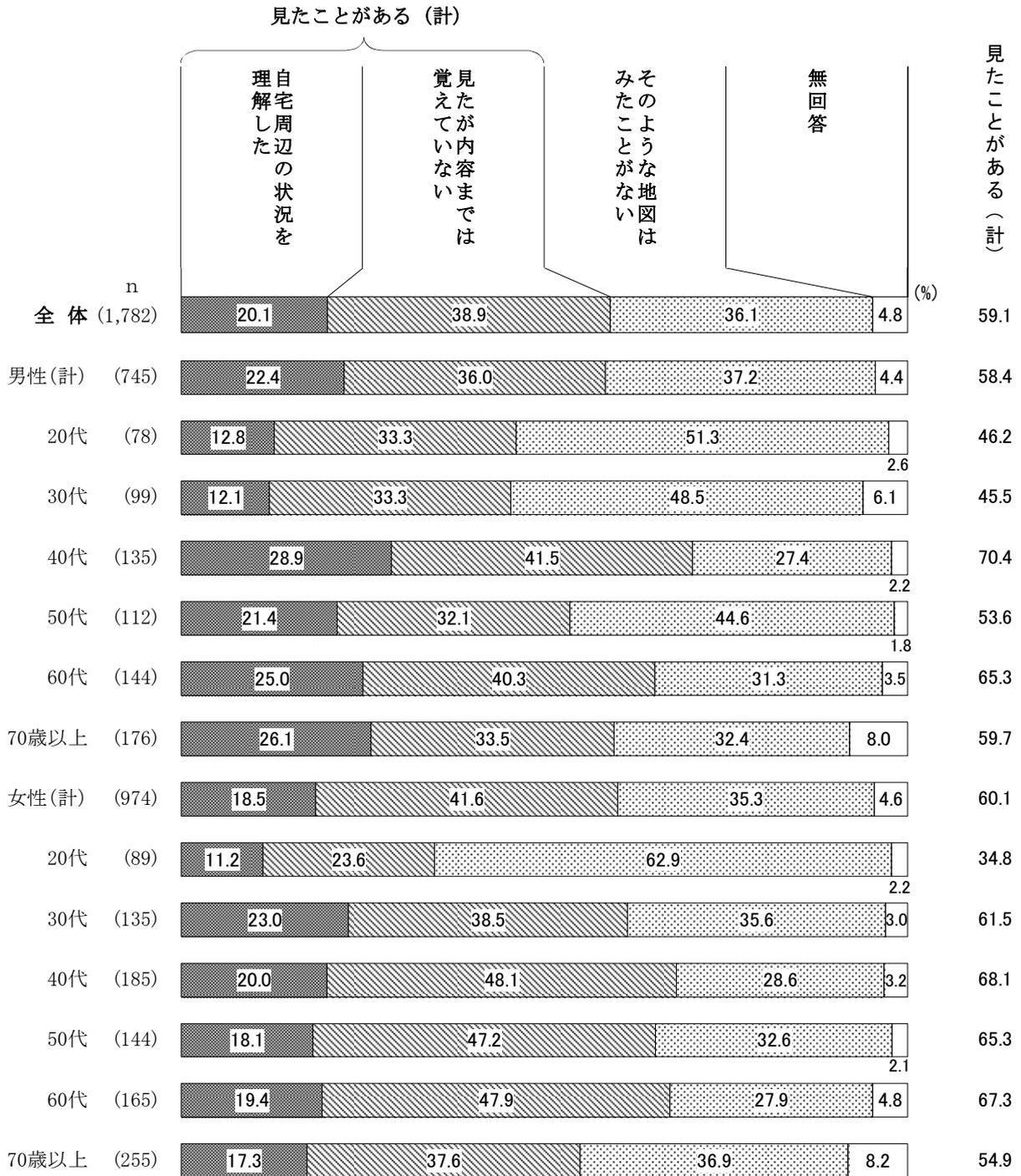


性別でみると、【見たことがある】については、ほとんど男女差はみられない。

性・年代別でみると、男性では、40代で【見たことがある】が70.4%と、他の年代より高くなっている。

女性では、30代から60歳代で【見たことがある】が6割を超えている。

図3-1-3 性別、性・年代別／「足立区洪水ハザードマップ」の認知

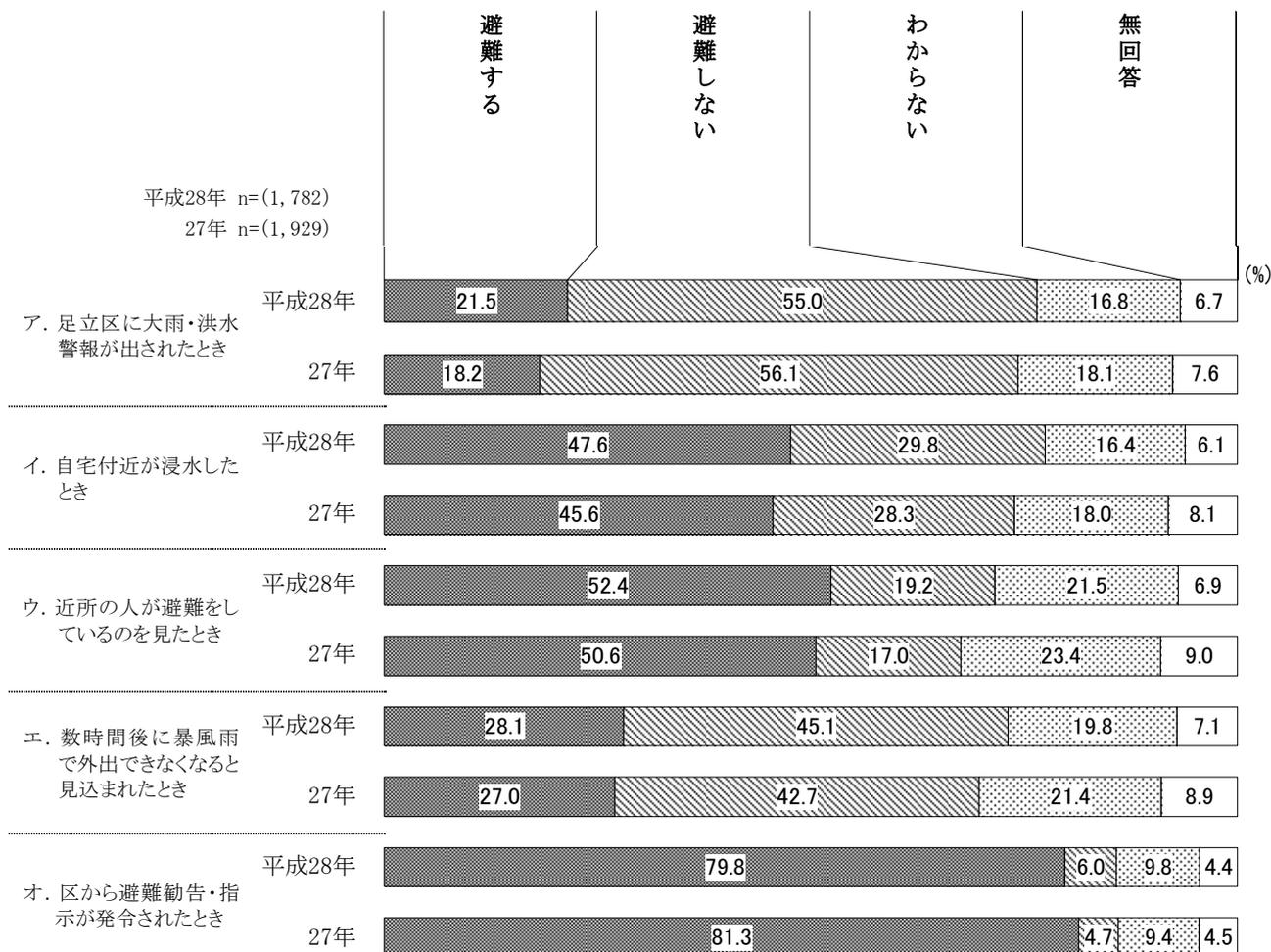


(2) 河川はん濫による浸水被害の際の対処

■ 〈区から避難勧告・指示が発令されたとき〉は「避難する」が8割

問10 河川がはん濫して、数メートルの浸水被害になるような大洪水が迫っていると仮定した場合、以下のア～オまでの情報を知ったとき、あなたは自宅から避難しますか。
(○はそれぞれ1つずつ)

図3-2-1 前回調査比較／河川はん濫による浸水被害の際の対処



河川が氾濫して、数メートルの浸水被害になるような大洪水が迫っていると仮定した場合、どのような情報を知って避難するかを聞いた。

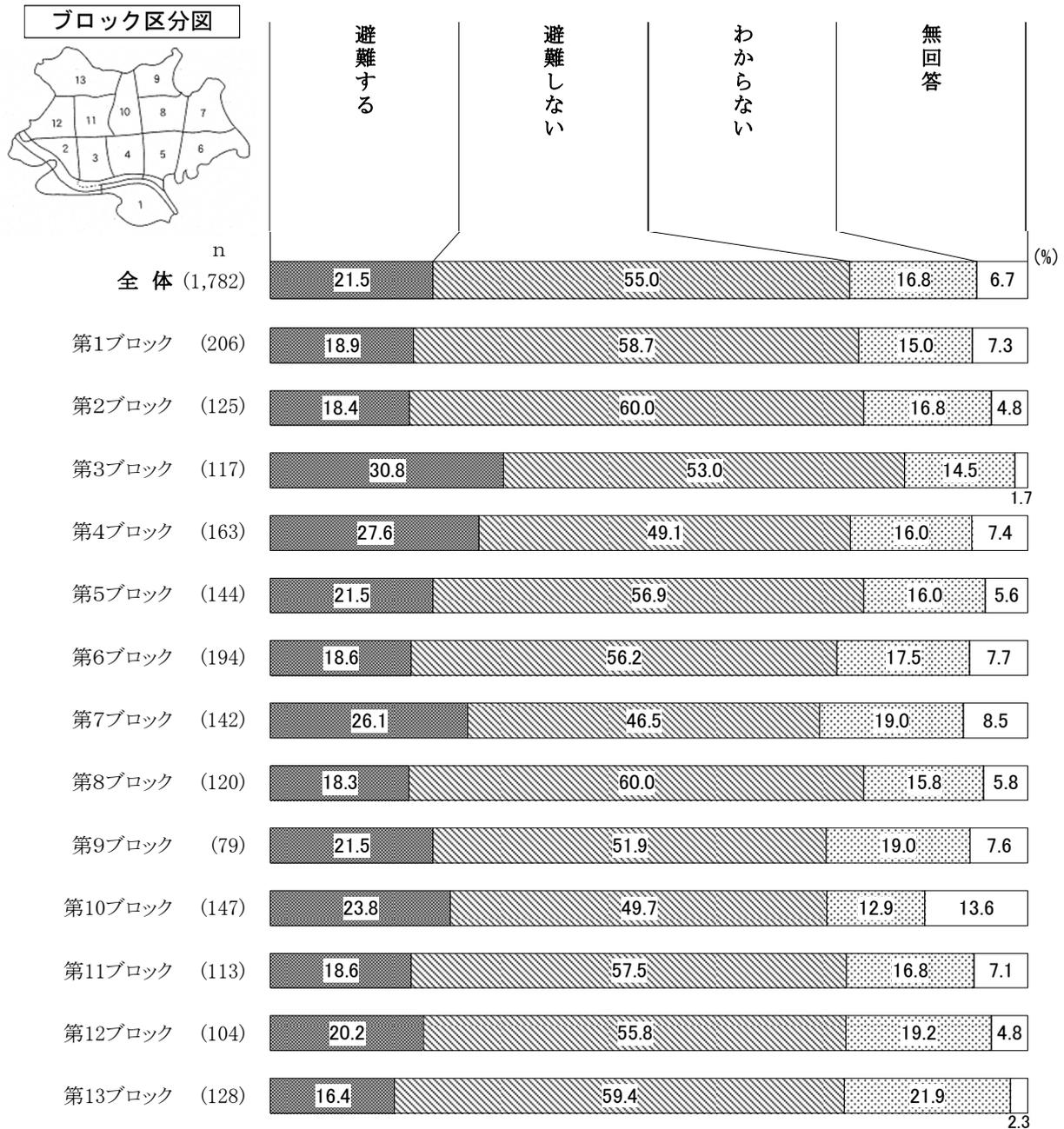
「避難する」が高い順にみると、〈区から避難勧告・指示が発令されたとき〉が79.8%で最も高く、以下〈近所の人が避難しているのを見たとき〉(52.4%)、〈自宅付近が浸水したとき〉(47.6%)の順で続いている。

経年でみると、回答の順位に変動はなく、比率にも大きな変化はない。

〈足立区に大雨・洪水警報が出たとき〉について、ブロック別で見ると、第2ブロック、第8ブロックでは、「避難しない」が60.0%と高くなっているほか、第1ブロック、第11ブロック、第13ブロックでも5割台後半となっている。

図3-2-2-① 地域ブロック別／河川はん濫による浸水被害の際の対処

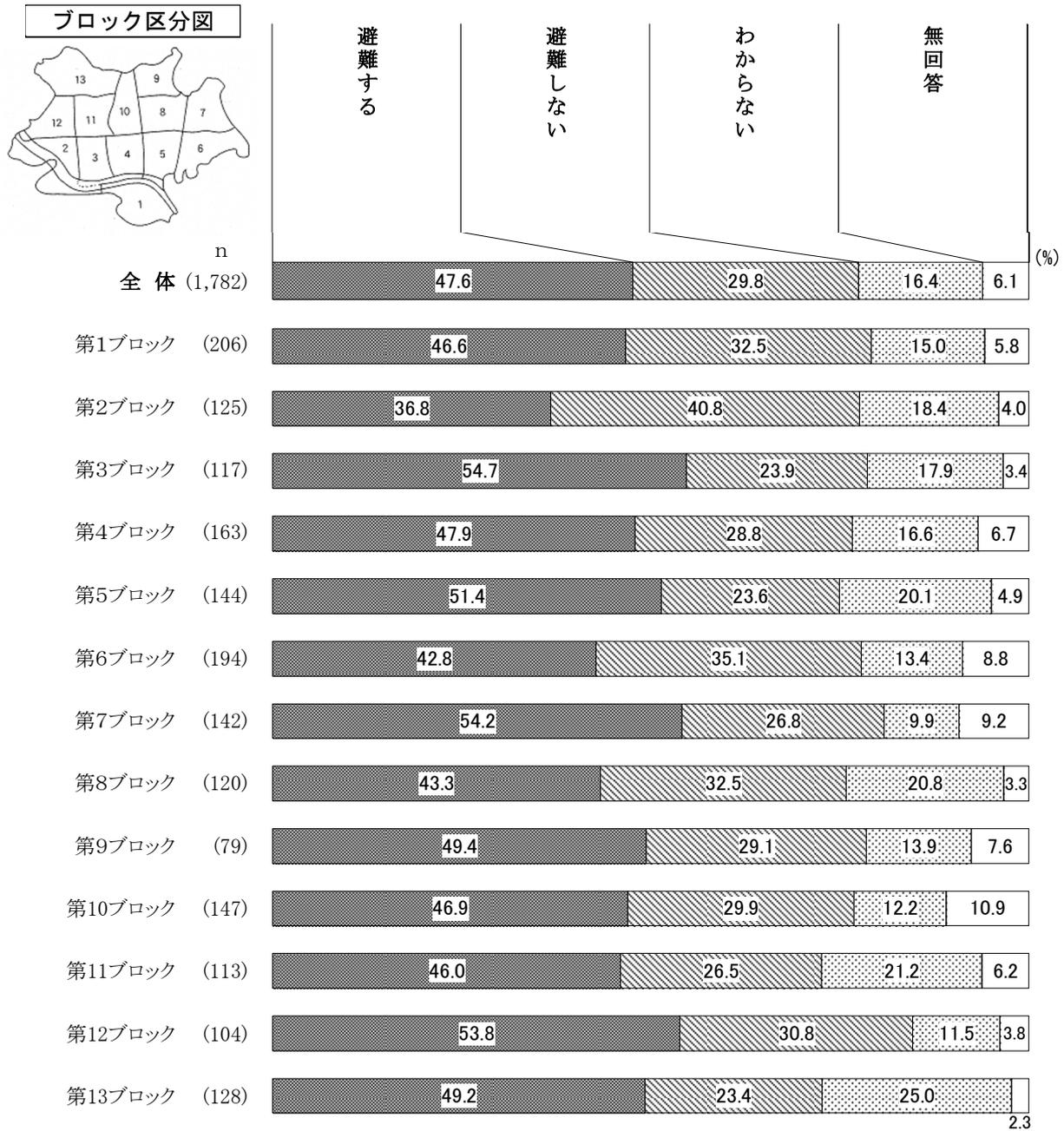
／足立区に大雨・洪水警報が出たとき



第3章 調査結果の分析 〈洪水対策〉

〈自宅付近が浸水したとき〉について、ブロック別でみると、第3ブロック、第5ブロック、第7ブロック、第12ブロックでは「避難する」が5割を超え、他のブロックより高くなっている。

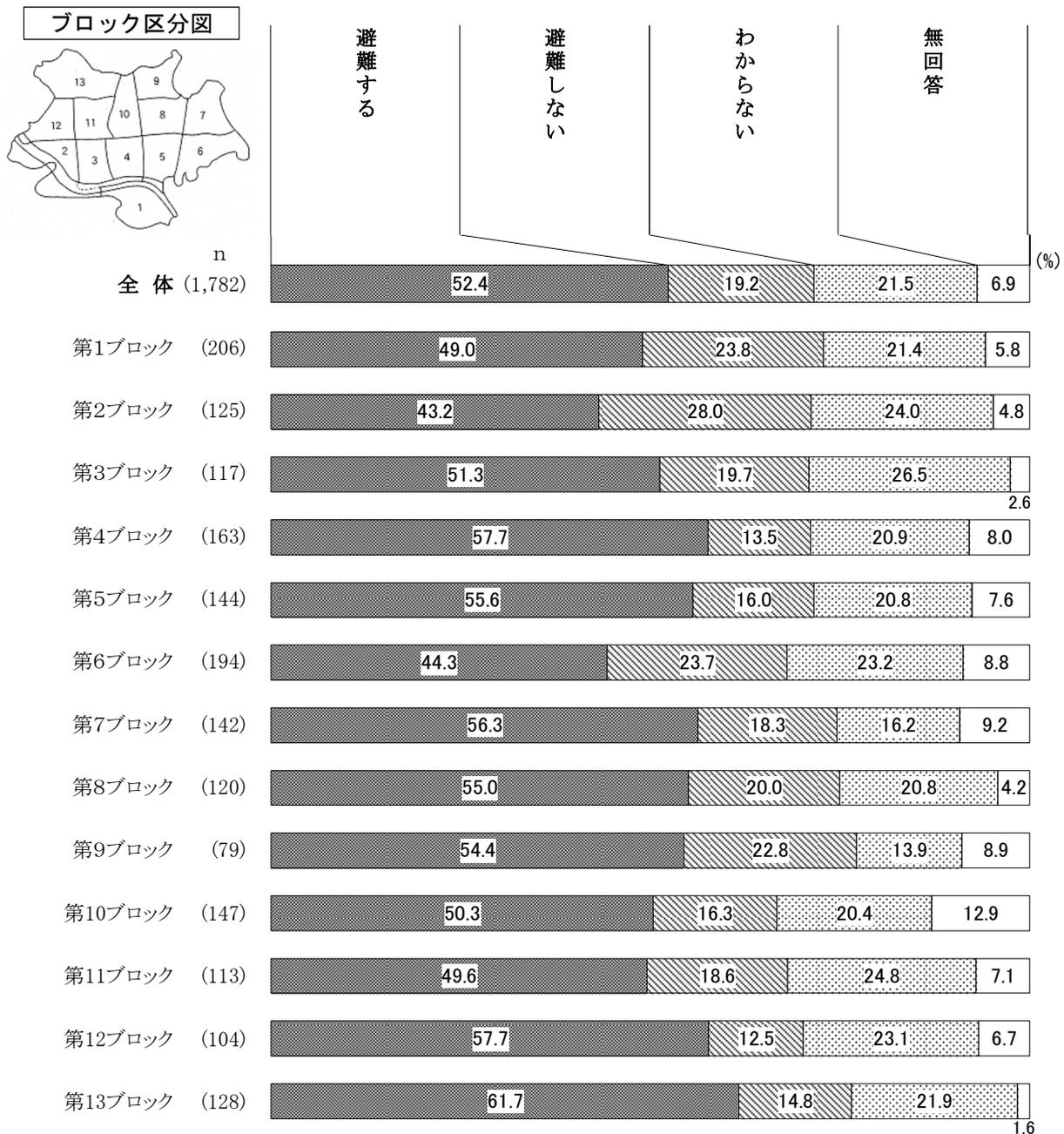
図3-2-2-② 地域ブロック別／河川はん濫による浸水被害の際の対処／自宅付近が浸水したとき



〈近所の人が避難をしているのを見たとき〉について、ブロック別でみると、第13ブロックで「避難する」が61.7%と最も高くなっているほか、第4ブロック、第5ブロック、第7ブロック、第8ブロック、第9ブロック、第12ブロックでも5割台半ば前後を占めている。

図3-2-2-③ 地域ブロック別／河川はん濫による浸水被害の際の対処

／近所の人が避難をしているのを見たとき

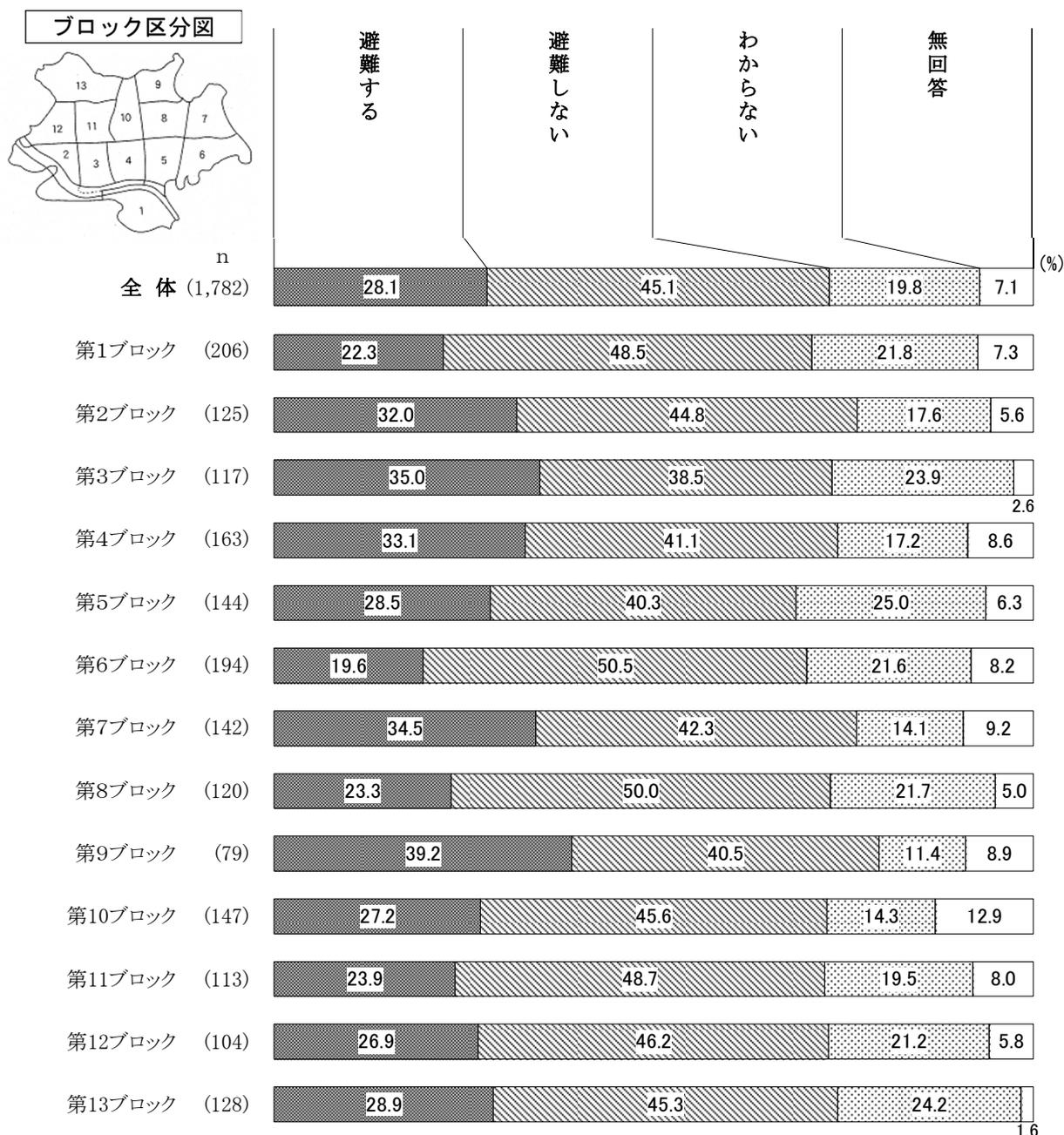


第3章 調査結果の分析 〈洪水対策〉

〈数時間後に暴風雨で外出できなくなると見込まれたとき〉については、第9ブロックで「避難する」が39.2%と最も高くなっているほか、第2ブロック、第3ブロック、第4ブロック、第7ブロックでも3割を超えている。

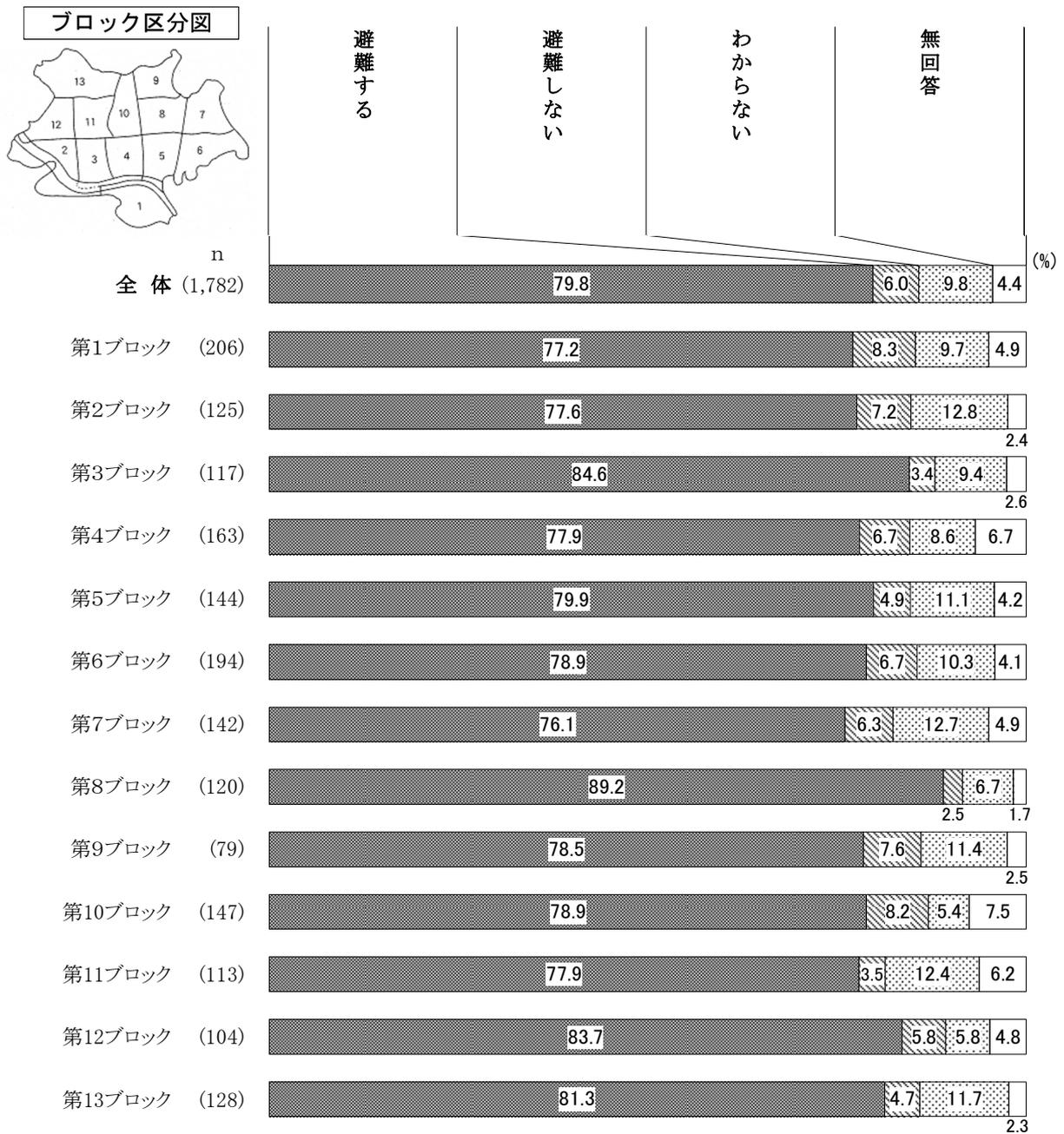
図3-2-2-④ 地域ブロック別／河川はん濫による浸水被害の際の対処

／数時間後に暴風雨で外出できなくなると見込まれたとき



〈区から避難勧告・指示が発令されたとき〉について、ブロック別でみると、第8ブロック、第3ブロック、第12ブロック、第13ブロックでも8割を超えている。

図3-2-2-⑤ 地域ブロック別／河川はん濫による浸水被害の際の対処
／区から避難勧告・指示が発令されたとき

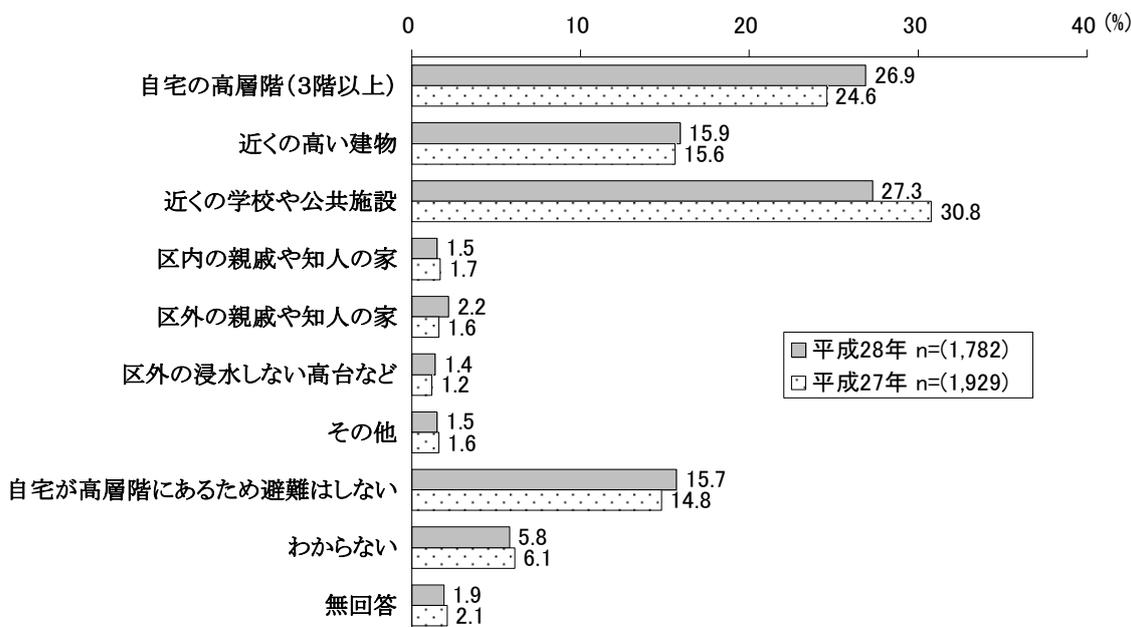


(3) 荒川がはん濫した際の最初の避難先

■ 「近くの学校や公共施設」「自宅の高層階（3階以上）」が2割台後半

問11 荒川がはん濫すると、最悪2階建ての建物の屋根まで浸水（5.0m以上）すると想定されます。そのとき、あなたは最初にどこに避難しようと思いますか（○は1つだけ）。

図3-3-1 前回調査比較／荒川がはん濫した際の最初の避難先

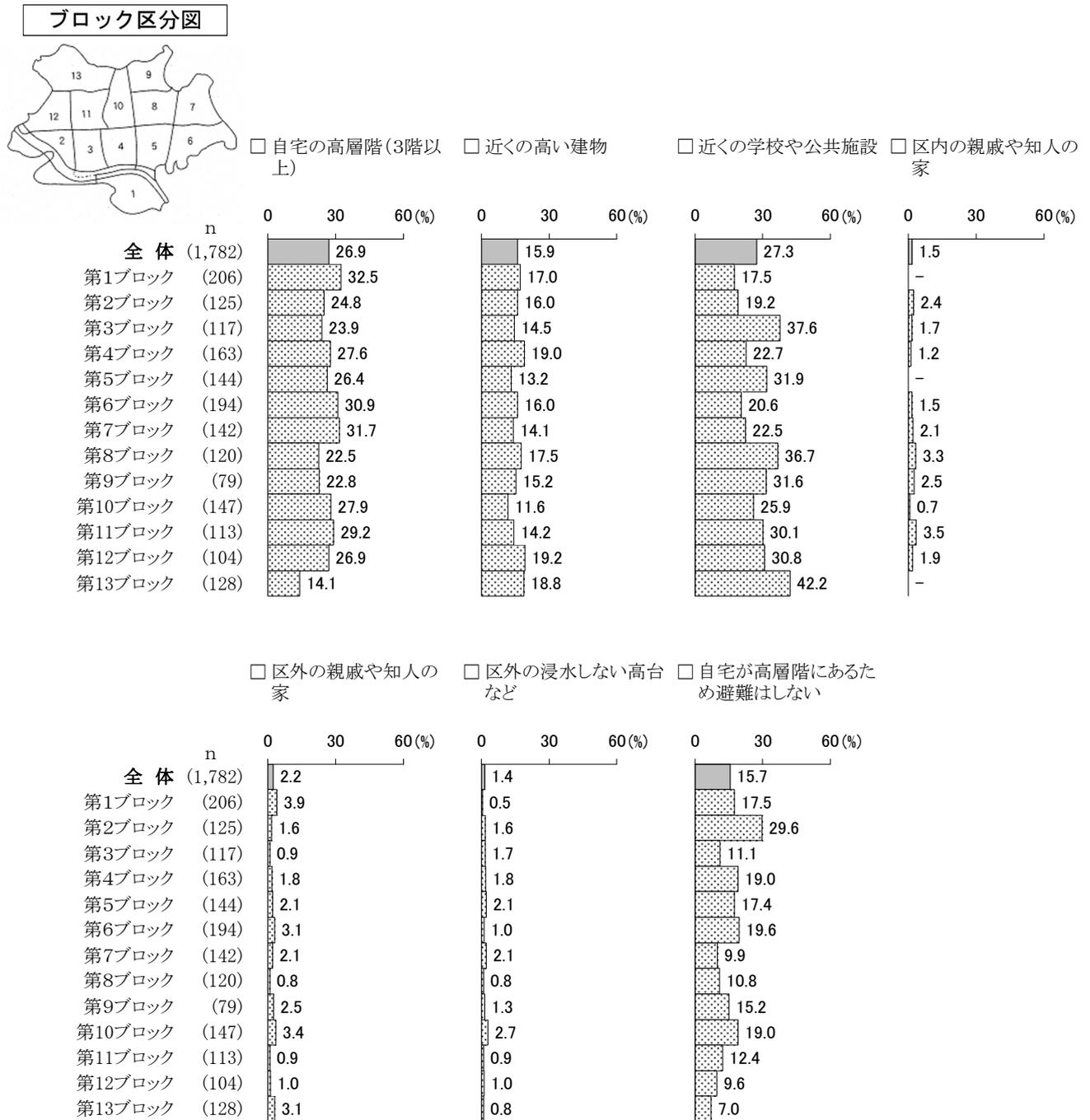


荒川がはん濫したときの最初の避難先としては、「近くの学校や公共施設」が27.3%で最も高く、以下「自宅の高層階（3階以上）」（26.9%）、「近くの高い建物」（15.9%）の順で続いている。

経年でみると、「近くの学校や公共施設」は、平成27年の30.8%から、今回、27.3%へと微減している。

ブロック別でみると、「近くの学校や公共施設」については、第13ブロックで42.2%と、最も高くなっているほか、第3ブロック、第8ブロックでも3割台半ばを超えている。「自宅の高層階（3階以上）」は、第1ブロック、第6ブロック、第7ブロックで3割を超えている。また、「自宅が高層階にあるため避難はしない」については、第2ブロックで29.6%と、他の地区に比べて際立って高くなっている。

図3-3-2 地域ブロック別／荒川がはん濫した際の最初の避難先



第3章 調査結果の分析 〈洪水対策〉

住居形態別でみると、一戸建て持家、一戸建て借家では「近くの学校や公共施設」が、それぞれ41.9%、53.1%と高くなっている。一方、分譲マンション、都市再生機構（旧公団）・公社・都営・区営などの公共住宅では「自宅の高層階（3階以上）」が4割前後を占めている。また、分譲マンションでは、「自宅が高層階にあるため避難はしない」も41.5%と高くなっている。

図3-3-3 住居形態別／荒川がはん濫した際の最初の避難先

